

[昭和建設株式会社]

Environment-Report 2017

[環境活動レポート:平成 29 年度分]

〈平成 29 年 2 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日迄分〉

エコアクション 21 建設業者向けガイドライン 2009 年度版準拠
(2012 年 1 月 : 環境省)



2018/05/18

経営理念

1. 我々は創意・工夫・熱意で紡いだ技術を提供します。
2. 我々は期待を超える革新的な品質と価値を提供します。
3. 我々は地域社会の一員として安心・信頼を創造します。

社 名：昭和建設株式会社

英文社名：Syouwa Kensetsu Co.Ltd.

設 立：1949年（昭和24年）2月

所在地：本 社 〒933-0057

富山県高岡市広小路6番1号

東京支店 〒103-0023

東京都中央区日本橋本町4-15-11

岩月ビル6階

射水支店 〒939-0341

富山県射水市三ヶ 1418

試験センター 〒939-0255

富山県射水市上条 333

代 表 者：代表取締役 開 章夫

環境管理責任者及び連絡先： 宮澤 明

[本社]TEL 0766-24-2561

[本社] FAX 0766-24-2564

事業の概要：舗装工事及び土木構造物の施工

国土交通大臣登録 一般特定 28 第 827 号

土木工事、舗装工事、建築工事、蔦土工工事、

鋼構造物工事、造園工事、浚渫工事、

水道施設工事、外構工事

事業の規模：資本金 4,914 万円

社員数 52名

売上高 約14億47百万円（平成29年度）

ホームページ：<http://www.syouwa-kensetsu.com/>

当社は昭和24年、富山県射水市（旧射水郡小杉町）に設立しました。その後、富山県高岡市に本社を移転し、富山県の高岡市・射水市を中心に土木工事及び道路舗装会社として69年、地域と共に歩んでまいりました。

昨今、建設業界は変化が大きく厳しさは増しておりますが、人々が生活するために必要なインフラ整備に欠かせないものであり、地域社会の一員として企業の社会的責任（CSR/Corporate Social Responsibility）を果たしていくために、努力してまいります。

我々は、長年培った技術を元に、創意工夫・熱意を持って、期待を超える品質と価値を提供し、地域社会の発展に貢献したいと考えております。

アスファルト舗装工事は我が社の主力であり、これからも地域の人たちの生活や物流になくてはならないものです。一般土木工事は災害が多発する自然環境の中で安全な生活のため、建築事業は人々の快適な生活のために必要なものです。

東京支店において、平成24年10月より新事業として、推進・シールド工法のDo-Jet工法（ウォータージェット方式）を導入しました。これは、今までは撤去できないと思われていた地中にある障害物をウォータージェットで切断することで安全に施工し、生活インフラを整備する事業です。

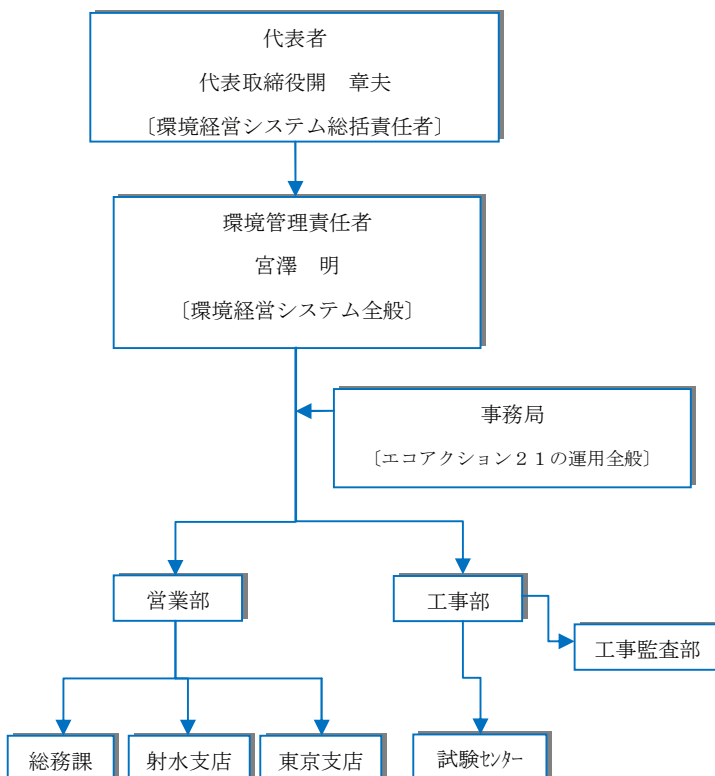
「今まではこれで良かったから、これでいい」ではなく、新しくできることを考え、地域に「昭和建設にやってもらって良かった」と言われる仕事になっていかなければならないと考えます。

今後ともより一層のご愛顧、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

環境方針

- 2006.9.27 とやま環境財団の自治体イニシアティブへ参加
- 2007.10.19 エコアクション 21 認証・登録
(ガイドライン 2004 年版)
- 2009.10 エコアクション 21 更新 (2 年毎)
登録範囲を拡大 (射水支店を対象へ)
- 2010.3.12 とやま環境財団主催、「エコアクション 21 事業者交流会」
にて、事例発表。
- 2010.9.27 中間審査にて「建設業者向けガイドライン (建設業者向け
マニュアル試行版) へ移行
- 2011.10 エコアクション 21 更新 (2 年毎)
- 2012.10.3 中間審査にて「建設業者向けガイドライン 2011 年版」
移行
- 2013.10 エコアクション 21 更新 (2 年毎)
- 2014.10.8 中間審査にて、「建設業者向けガイドライン 2009 年版」へ
移行。並びに、登録範囲へ東京支店を拡大し、全組織にて
認証・登録となる。
- 2015.10 エコアクション 21 更新 (2 年毎)
- 2017.8.25 エコアクション 21 中央事務局より継続 10 年表彰

E A 21 実施体制



CONTENTS

- 組織の概要・・・・・・・・・・・・・ 1
- エコアクション 21 への取組み、
実施体制・・・・・・・・・・・・・ 2
- 環境方針・・・・・・・・・・・・・ 3
- 環境目標・・・・・・・・・・・・・ 3
- 環境活動計画・・・・・・・・・・・・・ 4
- 環境目標の実績・・・・・・・・・・・・・ 4
- 環境活動計画の取組結果とその評価、
次年度の取組内容・・・・・・・・・・・・・ 6
- 環境関連法規等の遵守状況の確認
及び評価の結果並びに違反、訴訟
等の有無・・・・・・・・・・・・・ 7
- 代表者による全体評価と
見直しの結果・・・・・・・・・・・・・ 7

対象範囲と対象期間

対象範囲：全社。

富山本社、東京支店
射水支店、試験センター

対象期間：2017 年度 (平成 29 年度)
(2017.2.1～2018.1.31)

※当社の決算月に合わせてあります。

I. 基本理念

当社は、舗装工事及び土木工事を通じて、企業活動と持続可能な経済社会の実現に貢献するため、環境マネジメントシステムを運用します。昨今の環境問題で求められている、「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」への実現を、建設業として取り組んでいきます。

II. 行動指針

1. 事務所において、電気使用量を削減し二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2. 建設機械等から排出する二酸化炭素を、省エネ運転等を通じて排出量の削減に努めます。
3. コピー用紙使用量の削減に努め、一般廃棄物の削減に貢献します。
4. 産業廃棄物の、分別・リサイクルを推進し、廃棄物の適正処理に努めます。
5. 節水活動を通じて、総排水量（水使用量）の削減を推進します。
6. 事務製品のエコ製品購入の推進、建設資材等のグリーン購入の促進に努めます。
7. 建設現場にて、周辺環境を配慮した、工法・施工を実施します。

当社に適用される環境関連法規を遵守し、最新の法規改正に留意し、環境保全に努めます。

地域の環境貢献活動への参加を推進していきます。

上述の環境方針に沿って事業活動を行い、環境意識を高める為、全社員に周知徹底し、環境への配慮を継続的に行っていきます。

なお、この方針は一般人にも公表します。

改定年月日：平成 30 年 2 月 1 日

昭和建設株式会社

代表取締役

関 章 夫

当社の環境負荷軽減のための環境目標は3年の中期目標とします。

- ・ Co2 排出量削減は、毎年前年比 2%削減を目標。
- ・ 廃棄物排出量削減として、コピー用紙の購入量を毎年前年比 2%削減。産業廃棄物の排出量削減は、建設業は設計により自らの判断での削減はできないケースがあるので、法規に従い適正処理 100%を目標としています。
- ・ 総排水量削減としては、毎年度前年の使用量以下に抑える目標としています。
- ・ 化学物質使用量の削減としては、当社は PRTR 法対象物質を取り扱わないので、目標は設定していません。
- ・ グリーン購入として、事務用品は環境に配慮した物品の購入比を 95%以上とします。
- ・ 当社が施工する工事に関する環境配慮としては、再生資材の使用の推進(再生アスファルト混合物、再生砕石、等々)、顧客に環境配慮型商品等の情報提供、環境に配慮した再使用・再生しやすい建設資材の促進を行います。
- ・ 地域の環境貢献活動への参加を推進していきます。

項 目	中長期目標（3年間）		
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
Co2 総排出量削減	前年比-2% 271592kg以下	前年比-2% 288798kg以下	前年比-2%
廃棄物 排出量 削減	コピー用紙	前年比-2% 509kg以下	前年比-2% 552kg以下
	産業廃棄物削減	リサイクルを推進し、適正処理 100%を目標	
総排水量削減	前年量以下 652m³以下	前年量以下 466以下	前年量以下
化学物質の削減	-（当社は使用しないので対象外）		
グリーン購入 (事務用品)	95%以上	95%以上	95%以上
工事の環境配慮	再生資材の使用の推進 顧客に環境配慮製品の情報提供 環境配慮建設資材の促進		

環境目標達成の為に主要な活動計画は下記の通りです。

・ **Co2 排出量削減**

電気使用量削減として、冷暖房の適正温度の設定、こまめな照明の消灯、待機電力の削減。

ガソリン、軽油、灯油、LPGの使用量削減として、エコドライブ、ストーブの適温設定、低燃費車への入替、ムダ使いの削減。

・ **廃棄物削減**

一般廃棄物削減として、コピー用紙の購入量削減のため、裏紙使用、ミスプリントの削減、両面コピーの推進、書類の電子化。産業廃棄物は、工事設計により自らの判断での削減はできないケースがあるので、法規に従い、リサイクルしやすいよう、分別し、再生資源化施設へ搬入します。

・ **総排水量削減**

総排水量削減として、水道使用量削減のため、こまめな水道蛇口を締める、水洗トイレの入替時には節水タイプを優先入替。

・ **化学物質使用量の削減**

当社は化学物質の取扱いはありません。

・ **グリーン購入**

グリーン購入は、事務用品の環境配慮物品購入を優先します。

・ **当社が施工する工事に関する環境配慮**

建設資材は、再生アスファルト混合物や再生砕石、等、仮設資材もリサイクル製品や再使用できるものは優勢的に再使用する。

・ **環境関連法規の遵守**

法規の遵守のチェックは勿論、排ガス・騒音・振動対策型建設機械等の使用により、周辺環境へ配慮した工法・施工を実施する。

・ **地域の環境貢献活動への参加**

環境美化等の環境貢献活動へ参加します。

当社の環境目標は、3ヶ年の中期目標を掲げており、今年度（平成 29 年度）は、中期目標 2 年目になり、実績は次の通りです。

・ **Co2 総排出量 前年比 0.51%削減(1,491kg 減)**

・ **コピー用紙購入量 前年比 4.95%削減 (約 27kg 減)**

・ **産廃排出量削減 (適正処理) 適正処理 100%**

・ **総排水量 (上下水道) 前年比 14.38%削減(67m³削減)**

・ **グリーン購入(事務用品)環境配慮製品購入比 100%**

今年度の達成状況を見ると、会社全体の Co2 排出量は、前年度比 0.51%削減となっており目標 2%削減は及ばなかった。原因として、ガソリン・灯油は削減できているが、電気・軽油・LPGが前年より増加しており、それが全体の Co2 総排出量増加の原因となった。

当社の主力工事のアスファルト舗装工事の年間施工量 (t) は前年 12956 t ありましたが、今年度は約 10964 t と、15.37%減少しました。しかし、軽油の使用量は増加している。それは大雪の為、除雪での使用が多かったことが原因だった。電気・LPGの増加の要因については、部門別評価で探りたい。

今後も環境負荷軽減活動は、今後も継続して実施していきます。

項目	平成 28 年度	平成 29 年度	
	基準年	目標値	実績値
		前年比・実績値	達成率
Co2 総排出量 (kg) 【目標：前年比 2%削減】	294,692	288,798 以下 0.51%減 1,491kg 減	293,201 99.51%
購入電力 使用量(kWh) kWh×0.640※(Co2)	46,902 30,017.28	45,963 以下 29,416 以下	48,391 30,970.24
削減値(%、Co2,kg)	—	3.17%増 952kg 増	95.76%
ガソリン 使用量(%) %×0.0674×34.6	27,251.88 63,269.60	26,706 以下 62,004 以下	24,380.68 56,603.65
削減値(%、Co2,kg)	—	10.54%減 6,6695kg 減	109.75%
軽油 使用量(%) %×0.0687×38.2	71,526.41 187,709.62	70,095 以下 183,955 以下	72,988.42 191,546.43
削減値(%、Co2,kg)	—	2.04%増 3,836.81 増	96.91%
LPG 使用量(kg) kg×0.0674×34.6	2,538.8 7,612.37	2,485 以下 7,460 以下	2,678.3 8,040.15
削減値(%、Co2,kg)	—	5.62%増 427.78 増	93.27%
灯油 使用量(%) %×0.0687×38.2	2,441 6,082.80	2,392 以下 5,961 以下	2,424 6,040.44
削減値(%、Co2,kg)	—	0.70%減 42.36 減	99.71%
コピー用紙購入量(kg) 【目標：前年比以下】	563,504	563.5 以下 4.95%減 27.87kg 減	535.634 104.04%
上下水道使用量(m ³) 【目標：前年使用量以下】	466	466 以下 14.38%減 67 減	399 113.37%
グリーン購入(事務用品) 【目標：購入比 95 以上】	—	95%以上 ±0	100% 100.05%
アスファルト合材施工量 (t)	12,955.7	—	10,964.1
	—	15.37%減 1,991.6t 減	—

※実排出係数は、平成 29 年度北陸電力の値を使用しています。

部門別：環境目標の実績と評価

【営業部：総務課、東京支店、射水支店含む】

・部門別内訳表【営業部】

項目			前年度	平成 29 年度		
				実績	前年比	
Co2 総排出量(kg) (部門毎)			40,673	37,604	-7.54%	
購 入 電 力	本 社 射 水	kWh × 0.640	28,381	31,842	12.19%増	
		※H29 北陸電 力実排出係数	Co2 18,163.84	20,378.88		
ガ ソ リ ン	本 社 射 水	リットル × 0.0671 × 34.6	4,859	3,007	38.11%減	
		リットル × 34.6	Co2 3,109.76	1,924.48		
ガ ソ リ ン	本 社 射 水	リットル × 0.0671 × 34.6	5,025.83	4,610.43	8.27%減	
		リットル × 34.6	Co2 11,668.27	10,703.85		
総 排 水 量	本 社 射 水	上下水道 m ³	297	270	9.09%減	
		上下水道 m ³	169	129	23.67%減	
コピー用紙購入量 (全社)			kg	563.504	535.634	4.95%減
環境配慮型事務用 品購入			%	100%	100%	100%

【環境活動の自己評価】

営業部としては、Co2 排出量が 7.54%削減となりました。

電力としては、本社が 12.19%増加し、射水支店は 38.11%削減との結果になった。本社の過去 8 年の年間平均は、34271kWh であり、今年度はその平均値以下である。前年の使用量が少なすぎたため、前年比だと悪い値に見えてしまう。

射水支店の電気及び水の大幅削減については、射水支店新築による寮とのメータの分離が要因である。今後の経過を見守りたい。

ガソリン、コピー用紙、上下水道使用量、共に大幅削減出来ている。今後も裏紙使用・両面印刷・ミスプリント防止等、使用量削減に努めたい。

グリーン購入については、継続して環境配慮型事務用品を選びたい。

部門別：環境目標の実績と評価

【工事部：技術部、サイト、試験センター含む】

・部門別内訳表【工事部】

項目			前年度	平成 29 年度		
				実績	前年比	
Co2 総排出量(kg) (部門毎)			253,841	255,597	0.62%増	
電 力 ガ ソ リ ン	試 験 場 現 場	kWh × 0.627※	13,662	13,542	0.88%減	
		リットル × 0.0671 × 34.6	Co2 8,743.68	8,666.88		
ガ ソ リ ン	試 験 場 現 場	リットル × 0.0671 × 34.6	675.80	713.84	5.63%増	
		リットル × 34.6	Co2 1,568.98	1,657.29		
軽 油	現 場	リットル × 0.0687 × 38.2	18,220.29	17,076.38	6.28%減	
		リットル × 38.2	Co2 42,301.32	39,645.55		
L P ガ ス	現 場	kg × 0.0598 × 50.2	71,526.41	72,988.42	2.04%増	
		kg × 50.2	Co2 187,709.62	191,546.43		
灯 油	現 場	リットル × 0.0679 × 36.7	2,441.0	2,424	0.70%減	
		リットル × 36.7	Co2 6,082.80	6,040.44		
コピー用紙購入量(全社)			kg	563.504	535.634	4.95%減
産 廃	産 廃	産廃排出：AS 廃材	t	7,631.72	5,095.58	33.23%減
		産廃排出：Co 廃材	t	545.53	845.54	54.99%増
アスファルト舗装施工量			t	12,955.7	10,964.1	15.37%減

【環境活動の自己評価】

Co2 排出量を見ると、0.62%増加となってしまった。要因としては、ガソリン・軽油・LPGが増加している。その中でも、軽油が Co2 排出量の大半を占めており、その軽油が増加すると総排出量に直結してしまう。

試験センターの電力は前年比で 0.88%削減と目標に少し届かなかった。

ガソリンに関しては、現場での使用量が 6.28%削減と、良好な結果となった。

軽油に関して、2.4%増加となった。アスファルト混合物施工量とすると、前年度より減少しているのに、軽油が増加してしまった。要因は、大雪の除雪で燃料の軽油が前年より多く使用したからであった。

灯油の使用量については 0.7%削減となり、大雪で寒い冬だったが、良い結果が出た。

LPGを使用するアスファルト混合物施工量の減少より、使用量が増加している。過去 8 年間の年間平均使用量は、2669.1kg であり、ほぼ平均値あたりである。

建設業にとって産業廃棄物の適正処理は当然だが、今後もリサイクルし易いように分別を徹底し、適正処理 100%を維持したい。

環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容

環境活動計画の取組結果

・Co2 排出量削減

- ・Co2 総排出量 目標値 前年比 2%削減
実績 前年比 0.51%削減→目標未達成

・廃棄物削減

- ・コピー用紙購入量 目標値 前年比 2%削減
実績 前年比 4.95%削減
- ・産廃排出量削減（適正処理） 目標値 適正処理 100%
実績 適正処理 100%

・総排水量削減

- ・総排水量（上下水道） 目標値 前年の使用量以下
実績 前年比 14.38%削減

平成 29 年度は中期目標・第 4 期の 2 年目となります。

Co2 総排出量は前年より削減も、削減目標値までは削減できなかった。

総排水量の大幅削減については、当社の射水支店解体・新築に伴い、寮とメータを別にしたので、その影響が大きい。それについては、節水しながら今後経過を見守りたい。

産業廃棄物は、契約書・マニフェスト・社内検査等によるチェックにて、適正に処理されていることを確認しました。

今後の課題として、本社ビルの照明の LED 化、及び業務エアコンが老朽化してきたので低消費電力型へ入替等、今後の課題である。

工事現場においては、従来通りエコドライブ等、ムリ・ムダの排除などを行い、環境負荷軽減活動を取り組んでいきたい。

・化学物質使用量の削減

当社は化学物質の取扱いはありません。

・グリーン購入

- ・グリーン購入(事務用品)
目標値 環境配慮製品購入比 95%以上
実績 環境配慮製品購入比 100%
目標を達成できた。今後も環境配慮物品購入を優先します。

・当社が施工する工事に関する環境配慮

従来から行っている、再生アスファルト混合物や再生砕石等の使用。

仮設資材もリサイクル製品や再使用できるものは優先的に再使用しました。

平成 29 年 12 月から軟弱土を改良するため、環境に配慮した土壌改良固化材「瞬間吸水材：セルドロン」を推進していきます。従来のセメント系固化材とは違い、六価クロムなどの有害物質の心配はありません。セルドロンはセルロース繊維で構成され、高い吸水性と、特殊な粒子構造により、高含水比の土砂を改良します。

・環境関連法規の遵守

環境関連法規を遵守し、必要な産廃契約・マニフェストの交付、必要な届出等を実施しました。

工事現場においては、排ガス・騒音・振動対策型建設機械等の使用を確認しました。

・地域の環境貢献活動への参加

平成 29 年度の高岡市建設業協会の環境美化活動へ参加しました。

次年度の取組内容

今年度迄の環境活動の結果を踏まえ、これ以上の削減は難しい様な状況になってきました。しかし、削減しなくてもよいではなく、今後も環境負荷軽減活動は行い、前年以下・維持管理等を導入していかなければならなくなってきました。

しかし、次年度は中期目標の最後の 3 年目なので、中期目標のまとめとして来年度の環境目標は、継続して下記の目標としたい。

- ・Co2 総排出量 前年比 2%削減目標
- ・コピー用紙購入量 前年比 2%削減目標
- ・産廃排出量削減(適正処理) 適正処理 100%目標
- ・総排水量（上下水道） 前年の使用量以下目標
- ・グリーン購入(事務用品)
環境配慮製品購入比 95%以上
- ・当社が施工する工事に関する環境配慮
再生資材の使用の促進、顧客に環境配慮型商品等の情報提供（セルドロンの推進を含む）
- ・環境関連法規の遵守
法規の改正情報の入手に注意し、法規の遵守。
- ・地域の環境貢献活動への参加
従来通り、積極的に参加する。

環境関連法規等の遵守状況の確認
及び評価の結果
並びに違反及び訴訟の有無

環境関連法規等の遵守状況の確認
及び評価の結果

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価した結果、違反は認められませんでした。

建設業として重要な廃棄物処理法等の確認として、産業廃棄物（がれき類、等）の処理については、処理施設への100%搬入されていることを、産廃契約書・マニフェスト・設計書との搬入数量の差異、建設工事現場では社内検査等によって確認し、適正処理していることを確認しました。

違反及び訴訟の有無

関係機関からの違反等の指摘はなく、利害関係者からの訴訟等についてもありません。

代表者による全体評価と
見直しの結果

		日付	平成30年4月20日
確認・評価項目	確認	確認・評価項目	確認
環境目標達成状況	✓	環境法規等の遵守状況	✓
環境活動計画の実施	✓	外部からの環境に関する	✓
環境活動運用結果	✓	苦情、要望	

環境への取組について、代表者の評価

環境経営システムが有効に機能しているか	適	不適
環境への取組は適切に実施されているか	適	不適

見直しの必要性

環境方針、又は、環境目標	あり	なし
環境活動計画	あり	なし
環境経営システム全般	あり	なし
実施体制	あり	なし
その他（ ）	あり	なし

見直しの具体的内容及び指示事項

〔環境方針〕

近年、異常気象など地球環境が変化してきたように思える。”ゲリラ豪雨”“線状降水帯”など今まで聞かなかった現象が頻繁に起きようになってきました。二酸化炭素の排出等における地球温暖化の影響を受け、異常気象が起きているのだろうか。

しかし、環境方針については従来通りに、自分達に出来る、建設業にできる環境負荷軽減活動を行っていきたくので、従来通りの環境方針で継続したい。

〔環境目標〕

今年度の結果は二酸化炭素総排出量が前年より削減したが、2%削減目標値までは削減できなかった。総排水量については、射水支店の新築等の影響により、数値上は削減しているが、注意して経過を見守りたい。

今の建設業界を見ると新規事業は少なく、橋梁等のコンクリート構造物の維持管理の時代になってきました。仕事の発注が見通せず、目標の設定以前に受注が困難である。

当社はE A21 導入 10 年を迎え、今まで環境活動を行ってきた結果、これ以上の削減は困難になってきたように見られる。しかし、削減しなくて良いでなく、今後も環境負荷軽減活動は行い、前年以下・維持管理（数値の把握は実施する）等を導入する時期にきたのかもしれない。

しかし、来年度は中期目標最後の3年目なので、中期のまとめとし、現在の目標設定の方法でE A21 の運用状況を見守りたい。